高松第三行政区ふるさと地域協議会

〒025-0014　岩手県花巻市高松15-72

連絡先：090-4638-9764（熊谷）

公益財団法人日本生命財団　高齢社会地域福祉チャレンジ活動助成

目標年次：2025年（令和7年）

農村版地域包括ケアシステム構築ビジョン

2019年（令和元年）9月

岩手県花巻市

高松第三行政区ふるさと地域協議会

私たちが取り組む「農村版地域包括ケアシステム」の構築

高松第三行政区ふるさと地域協議会　会長　神山儀悦

当協議会は、花巻市高松地区住民による任意団体であり、２００８年の設立以来、少子高齢化、高齢者の孤立、認知症対策等地域の課題解決に向け「農業と福祉の連携」による取り組みを実施してきました。

具体的には、「福祉農園での農作業や多世代交流を図りながら、住みなれた地域で、尊厳を守りながら自分らしく暮らし続けることができる「農村版地域包括ケアシステム」の構築を目指しています。

こうした取り組みを、今回日本生命財団様の助成によりさらに発展、進化させ、岩手県立大学や行政、福祉団体等と連携・協働により、①「住民主体」の地域包括ケアシステム構築に向けたビジョンの策定、②耕作放棄地の活用による福祉農園の拡張、③農園での収穫農産物を活用した生活支援（配食サービス等）、④農園をケアファーム（青空デイサービス）として活用、等の活動を行っていくことにしています。

これにより、岩手県の中山間地域に暮らす私たちが、さまざまなことにチャレンジしながら、地域資源と人材を活用した「共生型コミュニティ」構築のモデル事業として全国へ発信していきたいと考えています。

「農村版『地域包括ケアシステム＝共生型コミュニティ』への挑戦」

岩手県立大学社会福祉学部　教授　宮城好郎

今、地方は大きく変貌しようとしています。わが国は、戦後期の混乱から高度成長期を経て先進国の仲間入りを果たし、豊かな社会を築いてきました。

一方で無機質な近代化、大都市への人口集中、少子高齢化や人口減少等により地域が衰退し、地域の伝統的な共同性が喪失するなどの課題が露呈されています。

こうした衰退する地域を住民自身が主体となり、農業を核に生涯現役を目指せるような仕組み・まちづくりをしようというのが「農村版地域包括ケアシステム」の要諦であると考えています。

高松第三行政区ふるさと地域協議会が目指すのが、地域住民主体の農村版地域包括ケアシステム＝「共生型コミュニティ」であります。「共生型コミュニティ」は、高齢者でも障がい者でも、子どもでも「認め、認められる」という相互承認の関係でつながっている地域社会です。福祉農園を舞台とした関係性は、まさに共生型コミュニティの「見える化」であり「具現化」への装置とも言えます。

このビジョンで示された内容は、農村からの共生型コミュニティへの挑戦であり、創出であると評価しています。

公益財団法人日本生命財団の助成により大きな一歩を踏み出す！

■贈呈式

○開催日時：平成 30 年 10 月 19 日（金）14:00 ～
○開催場所：平良木公民館
○主な内容：贈呈式、キックオフミーティング
・活動内容の紹介、目標
・大橋謙策選考委員長よりアドバイス、質疑応答

■中間確認会

○開催日時：平成 31 年 4 月 10 日（水）15:00 ～
○開催場所：平良木公民館
○主な内容：事業の進捗状況の報告
連携団体からのコメント
大橋謙策選考委員長よりアドバイス、質疑応答

■大橋謙策選考委員長よりアドバイス（一部抜粋）

①データに基づく課題の「見える化」「共有化」、プロジェクトチームでの検討
②施設の食事は地産地消、施設との関係づくりによる８次産業化
③「地域で子どもを育てる」地域学校共同事業との連携
④地元出身者とのネットワークづくり
⑤法人化を目指す

「福祉農園」から始まる「農村版地域包括ケアシステム」の構築

生きがい創出！

生涯現役！

※関係人口創出

※通所型サービスA
「ケアファーム」

福祉農園

多世代共生の居場所づくり

連携団体

- 花巻市
（農政課、長寿福祉課、障がい福祉課）
- 花巻中央地域包括支援センター
- 花巻市社会福祉協議会
- 岩手県立大学社会福祉学部
- 岩手県社会福祉事業団やさわの園
- やさわこども園
- ＪＡいわて花巻

連携

実践

主体

地域住民

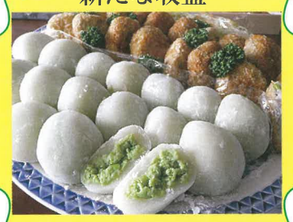
人材！

※訪問型サービスB
「自動車による
付き添い支援」

高齢者　障がい者　子ども

↑ ８次産業化へ

新たな収益



※通所型サービスＡ、訪問型サービスＢは、花巻市介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）の中のメニューです。

福祉　農業　交流

サロンのおやつ

施設へ食材供給

配食サービスの食材

６次産業化

※「関係人口」とは

「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。

地方では、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面していますが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されています。

（総務省資料より）

目指すのは、**「共生型コミュニティ」**（地域共生社会）

農村版地域包括ケアシステムの構築、まずは**「近所の近助」**から

＜参考資料＞　人口、高齢化率、独居世帯数等　（基準日 H31.3.31）

地　区	人　口			世　帯　数							
	総人口	65歳以上の人口	高齢化率	独居世帯（世帯数）	独居世帯（内施設入所者）	独居世帯（内男性）	独居世帯（内女性）	老人のみ世帯（世帯数）	老人のみ世帯（老人人数）	混合世帯（世帯数）	混合世帯（老人人数）
高松第三行政区	168	77	45.83%	19	0	9	10	10	21	24	37
矢沢地区計	7,829	2,742	30.02%	425	13	140	285	417	860	955	1,457
花巻市全体	95,501	32,148	33.66%	6,305	896	1,918	4,387	4,441	9,253	11,122	16,590

「農村版地域包括ケアシステム」の構築ビジョンができるまで

≪それぞれの専門性を活かして協働する連携団体≫

- 花巻市（農政課、長寿福祉課、障がい福祉課）
- 花巻中央地域包括支援センター
- 花巻市社会福祉協議会
- 岩手県立大学社会福祉学部
- 岩手県社会福祉事業団やさわの園
- やさわこども園
- ＪＡいわて花巻

≪岩手県立大学社会福祉学部の佐藤緋奈さんの卒業課題研究≫

ビジョンの策定にあたり、岩手県立大学社会福祉学部の宮城好郎教授のご指導と、佐藤さんが卒業課題研究として取り組んでくれた『「福祉農園のケアファーム的利用の可能性について」－花巻市高松第三行政区の福祉農園を事例として－』が参考になりました。

佐藤さんのワークショップやヒアリングに、多くの方々が協力してくれました。

≪農業と福祉のチカラで地域課題を解決≫

「農」のチカラ
「福祉」のチカラ
＋ 「人」のチカラ ＝ 「地域」のチカラ

住民主体による地域を支える取り組み

高松地域では、花巻市介護予防・日常生活支援総合事業（実施団体：ふるさと高松げんき村）を花巻市より受託して、自動車による通院・買い物などの付き添い支援や配食サービスをおこなっています。

これからも高齢者の免許返納や一人暮らし高齢者が増えることが予想されることから地域を支える取り組みを充実させていきたいと考えています。

≪自動車による通院・買い物などの付き添い支援≫

≪配食サービス≫

高松第三行政区における地域づくり活動の歩み（抜粋）

■2008年（平成20年）

- 高松第三行政区ふるさと地域協議会設立
- 神楽の伝承と後継者育成
- 名勝・旧跡の整備保全
- 地元食材を活用した加工品開発

■2010年（平成22年）

- 6次産業化の取り組み
- ふるさと宅配便の開発に向けた、地元出身者へのふるさとアンケートの実施
- 畑の学校（貸し農園）の設置

■2011年（平成23年）

- 岩手県立大学社会福祉学部との連携（農福連携の取り組みへ）
- ふるさと交流福祉計画の策定
- 福祉人材養成講座の開設
- 福祉農園の設置

■2014年（平成26年）

- 一人暮らし高齢者へ配食サービス開始

■2016年（平成28年）

- 高齢者の外出支援社会実験開始（2018年（平成30年）まで）
- 福祉農園を中心とした地域人材活用による農村版地域包括ケアシステムの構築プラン策定
- 福祉農園の拡張

■2018年（平成30年）

- 自動車による病院や買い物などへの付き添い支援開始
  （花巻市介護予防・日常生活支援総合事業を活用した訪問型サービスB）

■2019年（令和元年）

- 農村版地域包括ケアシステムの構築ビジョン策定
- 福祉農園の拡張

□その他、試行錯誤を繰り返しながらさまざまな活動にチャレンジ！
都市農村交流イベント、ふるさと宅配便、困ったときの連絡先一覧、ふるさと花火大会、名勝のライトアップ、地域づくり講演会、「移住者と共に」DVD製作、地元産米を使った純米酒の製造委託・・・